

広報の歩み…

昭和30年12月	「広報普代」のタイトルで、タブロイド判(2ページ)で創刊。22号まで発行して休刊。
39年4月	6年余の休刊を経て、タイトルを「広報ふだい」と改め、B5判(6ページ)で再刊。発行日は毎月20日に。
41年2月	県広報コンクール・写真の部で3位入選。
42年10月	県広報コンクール・写真の部で2位入選。
43年7月	発行日を毎月10日に変更。
43年10月	県広報コンクール・写真の部で3位入選。
45年9月	100号を迎える。
45年10月	県広報コンクール・写真の部で2、3位入選。
49年3月	復刊10周年を記念して増刊号を発行。
54年1月	200号を迎える。「広報ふだい」のタイトルデザインを変更。
56年9月	発行日を毎月15日に変更。
56年12月	23号から226まで収録した「広報ふだい」縮刷版を刊行。
58年7月	本文に使用する文字を1回り大きくする。
60年4月	1色刷りを2色刷りに変更。
61年1月	県広報コンクール・広報紙の部で2位入選。
62年1月	県広報コンクール・写真の部で3位入選。
62年5月	300号を迎える。第1号を発刊してから32年。
平成元年1月	県広報コンクール・広報紙の部で3位入選。
2年4月	A4判に変更。
3年1月	県広報コンクール・広報紙の部で3位入選。町村Ⅱ部(人口1万人未満)の県代表として全国広報コンクールへ。
4月	発行日を毎月25日に変更。全国広報コンクール・広報紙町村Ⅱ部で1席入選。
4年1月	県広報コンクール・広報紙の部で1位入選。町村Ⅱ部の県代表として全国広報コンクールへ。
4月	全国広報コンクール・広報紙町村Ⅱ部で2年連続1席入選。
5年7月	「広報ふだい」縮刷版Ⅱを刊行。
7年1月	県広報コンクール・広報紙の部で3位入選。町村Ⅱ部の県代表として全国広報コンクールへ。
4月	全国広報コンクール・広報紙町村Ⅱ部で8席入選。
9月	400号を迎える。
8年1月	第1号を発行してから40年目
9年1月	県広報コンクール・広報紙の部で3位入選。町村Ⅱ部の県代表として全国広報コンクールへ。
4月	全国広報コンクール・広報紙町村Ⅱ部で3席入選。
10年1月	県広報コンクール・広報紙の部で2位入選。町村Ⅱ部の県代表として全国広報コンクールへ。
11年1月	県広報コンクール・広報紙の部で3位入選。町村Ⅱ部の県代表として全国広報コンクールへ。
4月	全国広報コンクール・広報紙町村Ⅱ部で2席入選。
13年1月	県広報コンクール・広報紙の部で2位入選。町村Ⅱ部の県代表として全国広報コンクールへ。
4月	全国広報コンクール・広報紙町村Ⅱ部で2席入選。
8月	2色刷りをオールカラーに。
16年1月	500号を迎える。第1号を発行してから49年目。

れ以来、現在まで休刊することもなく毎月発行されています。四十二年七月から発行日を毎月十日に変更。五十四年一月、二百号を迎えるとともに、「広報ふだい」のタイトルデザインを変更しました。五十六年九月には、発行日を十日から十五日に。「広報ふだい」縮刷版は、五十六年十二月に発行。創刊号から二十二号までは保存されていないため、二十三号から二百二十六号までを収録。六十年四月からは、二色刷りにしています。

六十二年五月に三百号を迎え、平成二年四月からは判をA4判に変えるとともに、翌二年四月から発行日を二十五日に。「広報ふだい」縮小版Ⅱは、五年七月に発行。二百二十七号から三百七十号までを収録しています。

七年九月に四百号を迎え、八年二月から発行日を十五日に変更して現在にいたっています。十三年一月(二〇〇一年)から、新世紀にちなんで「広報ふだい」の字体を変更しています。また「広報ふだい」はこれまでに、県広報コンクールや全国広報コンクールで数多くの入選を果たすなど輝かしい実績も残しています。

それでは、どのようにして広報が各家庭に届けられているのでしょうか。ご紹介しましょう。

まず十五日に発行した後、二十日ごろまで次の広報の企画を考えます。「トップ記事はこれにしよう。ここには、これを持ってこよう」と。企画が決まったら取材に取り掛かります。もちろん、主な行事とか皆さんから寄せられた情報は、これに限らずいつでも出掛けます。

決まりものの「みんなのひろば」や「若さでがんばります」、役場各課からのお知らせなどは、遅くとも二十五日ごろまでにみんなそろそろ依頼したり、取材します。それから約一週間、原稿と大格闘。何とか仕上げた原稿を

ろば」や「若さでがんばります」、役場各課からのお知らせなどは、遅くとも二十五日ごろまでにみんなそろそろ依頼したり、取材します。それから約一週間、原稿と大格闘。何とか仕上げた原稿を

広報が各家庭に届くまで

49年目に見る人口と世帯